

あるんですが、その他細かいのに関しましてはほとんどつまりあれなんです。防衛庁並びに基地からいまままで連絡のあったためじゃないんです。それに打って前回の一般質問のときにはこういふことを言ってるんです。演習その他については口頭や文書で連絡をします。なおかつ情報なるべく早くキャッチをするのであるということを言ってるんです。「みちのく84」に関しては割と大きな演習でなし、日米の陸軍演習としては非常に総合的なもので新聞などにも出まして一部のマスコミは出たわけですが、その折にもフィリピンにいるアメリカ空軍が反後に来るといふようなことについての記述があったはずなんです。さういふようなことを事前にはチェックをするような機能を市長さん持っておられるのかというところについて疑問として、市民生活に影響があるかもしれないというところに関しましてはやはり細かい情報収集をやっていたのかなと。これは僕ですら、つまりあらかじめそのことについて新聞などを知ってるわけですから、当然市民の安全をより考える市長さんのところとしては当然あったのではないかなと思いますけれども、事前の情報というのは全くないままにしたのかというところをひとつ伺いたいですね。

それから、これのことにつきまして、「みちのく84」のときの離着の問題につきまして確かにあのときはうるさいという話がいっぱい出たはずなんです。それで、その後はいいですよ、あらかじめ連絡がなかったんだと。その後はどうなったのかというところについて伺っておきたいんです。それから、あるいは司令官との折に「みちのく」のときには大変うるさかったが、どうなんだというような話をしたのかどうかというところを次に伺っておきたいんです。実は、これは「みちのく84」のときにはその最中のファントムが来ることになって九月の八日ごろから盛んにハーキュリーズがこのために横田に飛来をしておりますし、何人かの軍人をC130で仙台に輸送しているんです。それから、さういふふうに訓練の前に輸送をたくさん行っていて、それでファントムが来ることになるんですけれども、新聞にもみられる報道が一部あったときにはどうだったのかというところが知りたい。

それともう一つは、さっき市長が横田基地の対応について僕の聞き違いでなければ、輸送中継の基地であるというふうなおっしゃり方なんです。その中継というのはいかなるような理解をなさっているのかというところを伺いたいです。

さんなどを待つ親御さんたち大変に苦のこととを心配しておりまして、これは何とかしてでも駅についてはこのままいままでの形で存置をしてほしいというふうにぜひお願いをしたいというふうに思っています。僕自身もすぐ近くに住んで大変に利用していただけます。ずっと八高線のこの三年ぐらいのを見ますとほぼ六百四十数人の横ばいなんですけれども、関東計画が始まったところで基地内工事の多かった時期には千人を超している時期もあるんですね。割と乗客が多かった時期、それなりに多かった時期もあるんですけど、むしろ電車が来ないから利用しにくいと。一時間に一本の電車じゃもう話にならないから結局定期は福生から買っちゃうという通勤客も多いいと思うんですね。むしろ積極的に本数を多くしてもらいたいから存置をしていたかどうかということをお願いをしていたのだと思います。

八高線についての質問は、このままにとどのめたいと思います。

次の保育園のことなんですけれども、僕はこういう伺い方をしたんですね。

もともとは、二市二町で行きましてと。二市二町で足並みをそろえまして、うというふうに言っていたわけですね。現実問題としては足並みがそろわなくな

らてたんですね。現実には足並みがそろわなくなつたにもかかわらず、市長はさきの答弁の中では二市二町が足並みをそろえたことについてそれはそれが乱れたというふうには言えていないんだとおっしゃられたけれども、どうしてそういうことが思えるか、もう少し説明していただきたいんです。

つまり、いままでもそうなんですけれども、二市二町で行くんだと。二市二町は赤みをそろえるんだと言うならば、当然その中で相互に二市二町の市長さん、町長さんの間で調整があったと思うんですね。あるいは、これはちょっと困るから待ちましてと、うという話はあったはずなんですけれども、今度の羽村のことにつきましては全く抜き打ちに、全く二市二町の相談もなく、う、ことになつてしまったのかどうかというところを伺っておきたいんです。

先ほどの原議員さんの説明の中では、十一月九日二市二町の会合があって、公立公営ではめないという条件は変わってないんだ。それは再確認をしたんだと。しかし、中には公立民営という考え方の所もあるようなんだけれども、しかし、いままのところは譲れない線だというふうになったという形で十一月九日ですね、これがね。それが十二月六日連絡があったというんですね。

では、その間は金くれないとすれば、一緡に行こうと言ったのが何かいきなり羽村が別の所を走ってうちやつたという感じがすごくなるんですね。やっぱり働いている人で、それから保護者の皆さんにとってみれば、二市二町でがんばってくれていると思いきや羽村がそこで振やりやつたというところに非常に不安だと思ふんですね。そのところもうちょっと知りたいですね。本当に羽村が振き打ちになるまで何の連絡もなかったのか。

要するに、情報の問題から言いますと十二月の二十六日には、たとえば働いている人たちの方の組合から言えば、西多摩保育園が羽村町移管についての合意があるようなことがわかってきているわけですね。それから十二月一日には議会の中でも明らかになつてくるわけですから、十二月六日に連絡などという二つの原則にわたつたような気もするんですね。その原則、つまり、それらの意思が表明される前と二市二町でやるんだが、実は羽村が行つたやうなかもしれないうんていうことについては全く聞いていなかったのかどうかというところを知りたいんですね。それは要するに二市二町で行きますという大前提が崩れているわけですから、いままではいくらなんでもの繰り返しの質問の中で移管には絶対

反対である、二市二町の足並みをそろえるんだとずっとおっしゃつてきて、僕はもうそれならばがんばれるというふうに思つてきたんですね。二市二町で崩れたことに對して市長さんどのようなお考えで、それはなおかつ二市二町で行かない。事実上行かないというふうに思つてますけれども、その先は単独でもがんばつていくというふうになつていくのか、あるいは残った二市一町でやつていくということがあるのか。さうさのお考えだと羽村との連携は崩れてないということ、もう実際には即立からの移管をのんびりとしたことは連携が崩れてないとなりますとどこへ行くんだろうと非常に不安な気もします。二市二町の足並みの問題についての政治的な判断というかな、やういふところをお聞かして願いたいというふうに思っています。

以上で二回目です。

○市長(田村匡雄君) 自席から何点かお答えいたします。

第一点の米兵や軍属の文通事務の関係を免許証をすぐというふうな二とでございますけれども、私ども、米軍のいろいろ横田基地との話し合いの中で、私どももいつもこう話をしてきたと、もう即刻免許証を取り上げよう

からという非常にきつい、厳し、何か処置をしているように聞いてゐるわけではございません。

それから、「みちのく」のファントムの件でございますけれども、この件につきましては私も情報も早く欲しいんだということももちろん防衛施設片とか、それから米軍等へも直接連絡はしてゐるわけでございますけれども、こういうた話が来っておりません。また、この「みちのく」のファントムの件については、横田へ飛来した後に防衛施設片へも連絡したわけでございますけれども、防衛施設片の方からはそういう連絡がないので、私どもの方へ答えようがないということでございますして話は来っておりません。

それから、横田基地の輸送基地の関係でございますけれども、この関係は輸送の中継基地だというふうに私どもは理解してゐるわけでございます。それから、保育園の件でございますけれども、この件については先ほど来お話をしてゐるうちに、十月の九日に二市二町の長が集まりまして、公立公営では受けられないというふうなことの再確認をしたわけでございます。その後全然話がなかったわけでございますけれども、羽村町ではそういうた話が、部との話し合

いが進んでおったというところで十二月になりまして連絡がありまして首長の会議があつたときに来年の四月から公立公営で受けらるんだという話が来たわけでございます。

それで二市一町の関係は、その後話が少しでも情勢が変わつたら一応話し合ふというところでございます。現在、しかし、私どもと同じような各二市一町ともそのような受けないというところが確約してあります。

○市民部長（古谷正夫君） 人口の一万人の確認をしてないのかというふうな御指摘でございますけれども、これは確認した人口でございます。ただ、一万人以上いるというふうな数字がよく示されておりますので、一万人以上という数字を出しまして計算をしてみたという数字でございます。

○総務部長（浅見裕康君） 研修の関係について御質問がございましたので御答弁申し上げます。

受会話の研修につきましては希望者を募つて実施をしてゐるわけでございますが、なかなかいやる勉強の時間というものが限られております。また、目的を達するまで熟達するということわけにはなっておりません。個人的にさらに

た自分で勉強しているというよりは職員もおりますので、なかなかその成果というのはいまのところでございすす。考え方としてはこれから研修を継続して、一人でも多く一応日常的な英会話程度はマスターできるように、そんな方向で一応研修は継続させていたきたいというふうに考えております。現時点においてはまだ期待に沿うというふうな段階には至っておりませんので、ひとつよろしくお願い申し上げます。

○十二番(遠藤洋一君)

いまお答えいただきました一番目の横田基地のところに聞きましたは大体一万八千の想定だということ、数字の論拠ですからそれぐらいというふうに思っています。

しかし、再三申し上げているとおり、この事故そのものは警察に届けられたという形ですから、その前のやはり処理というものについていろいろな話も聞かれています。ぜひ市民生活に非常に重要な影響を及ぼすことですので、これから行政としては市民に不利益のこうあるような形での事故の処理については、断固として処置をしていただくように警察その他の方面にもお願いしていただきたいというふうに思っています。僕の非常に少ない経験から言いますと、むしろ米兵の事故のときに毅然と厳しければ、軍の警察の方がはるかに厳しい態度をとっているわけですよ。僕の、二例しかないんですけども日本のパトカーの方がやはり言語問題その他でなかなか米軍に對してもきちんとしたことをしてくれないんですけれども、そのときに何とかとにかく説き伏せてでも軍の警察を呼びますと、軍の警察の方がむしろ非常に事故を起こした軍人なり軍属に對しては毅然とした厳しい態度をとるといふことが僕の経験上からもありますし、むしろ交通事故を起こした人——起された人にしてみれば何とか日本の警察が取り合ってくれて、それで向こうの軍の警察を呼んでもらうまでが大変というのがどうも実情のところがあるんです。警察側のそういうようなことに關しても、随分長く軍の車とおつき合っている市民の方も多いわけですから、どうかにあきらめたようにないところもあるんじゃないかというふうに思っていますね。やはりあきらめずに、やはりわれわれが持っているところとした固有の権利の問題ですから、ましてや被占领国の警察でもないわけですから、できる限り市民の方の利便を回復するように市としてもぜひお願いしていただきたいというふうに思っています。

それにつきましても英会話の研修については目的を達するまでにはいきませんという
ことで大変残念ですけれども、実際に市役所においても軽自動車のことや、
その他のことで随分英語をしゃべる外国人、アメリカの軍人並びに軍属ではないか
と思う人がしばしば窓口を訪ねてくるところを目にするですけれども、そのときで
のトラブルを避けるためにも、ぜひそこはよくお願いしていただきたいというふうに思
います。これはここですべて結構です。

それから、いまの市長の返答、僕、毎回同じようなことを聞いて同じようなこ
としか返ってなくて本当に不満なんですけれども、情報が欲しい、直則だと、
しかし、果てないということ、いまでも同じことをしていてもしょうがないと思うんで
すよね。どこかでむしろ市の方が正確なる基地のデータを持って、それで防衛施
設片なり米軍と渡り合えるようなシステムその他をぜひ早急に確立していただ
きたいというふうに思うんですね。

前から基地対策課というのは前市長の石川さんのときから僕は言ってるわ
けですけれども、石川市長のときには全職員が基地対策課のつもりでこ
ごいますという返答をいただいた、まあ今度の市長さんになりましてからも、

基地対策という形での主幹が今度の機構改革の中で出てきましたけれ
ども、それはやはり市民対策というよりはむしろ防衛片対策ということ
でありまして、どちらの面から言っても、持っている情報の量がやはり
さまざまな形での自治体とそれから国並びに関係省庁との対応のときに重
要ではないかと思えます。その点のところにつきまして、これから市長の原さん
への答弁を聞きましても基地はいい方がいいけれども、仕方がない。仕方がな
い以上はということがありますけれども、それにしても非常に重要なものは、
市民生活に影響を及ぼすようなものに對して、あらかじめ情報を持つとい
うようなところにつきまして大事ではないかと思えます。

一つは基地の対応について、これからの、つまり市長の方針みたいなことを
ぜひ伺わせていただきたいと思えます。いままではあり防衛片からの連
絡を待つようにするの、それとももう少し積極的に商業新聞まで
含めまして情報収集ということを行くというような形をおとりになるつも
りがあるのか。

今度のことについてはまだ御返事がされてないのは、新聞報道があったは

ずですけれども、それを見落としている事実なんです。そこにつきましてはやはり僕は責任のある態度ではないというふうに思っていますので、これからこのような、つまり横田基地がかわるような、あるいは市民生活に影響を及ぼすような国の、要するに軍事演習というのは国の問題ですからなかなか一自治体ではそれは非常にむずかしいこともあると思うんですね、それについてどう言うかは、しかし、少なくともその間どういう事態が発生するかということについて自治体の市長はつまり認識をすることが重要だと思っておりますので、とにかくこれから先はどのような形で情報の収集をなさるかということについて最後に伺いたいと思います。先ほど出していただいた飛行機の機数のデータを見ているんですけれども、やはり日によって、月によって随分増減の差はあるんですね。こういうデータなどというものも非常に自治体としては大変重要なデータではないかと思っております。こういうものの活用というものをぜひ考えていただきたいというふうに思います。それがいまの市長さんへの情報の問題です。

それから、最後の保赤月園のことなんですけれども、やっぱり僕もよくわからないところがあります。よくわからないというのは市長さんの方もちょっと羽村町さん

がああいう形になったんで困ったなと思つてるところがあるんじゃないかというふうにお察しはしますけれども、これから先はやはり残った一市二町で足並みをそろえてやって、断固として部品の移管というものを阻止をしていくんだというこのことにつきましてもう一遍確認をさせていただきたいと思います。

何回もそういうことをやって失礼みたいな気もするんですけれども、現実には、やっぱり羽村の形が非常に近いものですから、遠い所からだとそんなに感じないかもしれませんけれども、非常に近く、しかも一帯に続いた所が変わってきたものでありますから、それだけやはり心配というのは、その周辺で働いている人たちにも非常に多いし、父母の皆さんにも多いというふうに思うんです。これから残った二市一町で断固としてやっていくんだというこの確認をいただければと思います。

以上、二つなんですけれども……。

○市長(田村匡雄君) また自席からお答えいたしますが、何回も申し上げて、いろいろございしますが、基地からの情報、それから防衛施設庁からの情報、こういったことは私としても飛行機の飛来——いろんな演習等が飛来

していることについては早く知りたいたいわけがございまして、何かある、要するに飛行機が普通よりも飛行回数が多いとか、あるいは機種の違いで飛行機が仮に上空を旋回するとした場合には、防衛施設庁へその節度実はずと連絡はしておいたわけがございすけれども、そう言ったことの答えが現実には返って来てないというより、この事実がございまして、非常に残念がございすけれども、現在のところそのようになっています。これからは強く防衛施設庁の方へ連絡を取っていきたいというふうに思っております。

それから、保育園の関係がございすけれども、これは羽村は羽村にやはり事情がありまして、いろいろな事情があると思ひんでございすけれども、そういう関係で都の保育園をお引き受けしたというところでございす。私どもの方の二市一町ではそういうことはないように話してございすし、三市町一ヶ村は、この首長の方でもそういう考えがございすので御理解いただきたいと思ひます。(はい、いいですと呼ぶ者あり)

○議長(田村市郎君) 以上で一般質問を終了いたします。

○議長(田村市郎君)

二時五十分まで休憩いたします。

午後一時五十分

休憩

午後二時八分

開議

○議長(田村市郎君)

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第二議案第六十八号 昭和五十八年度福生市一般会計決算認定についてを議題といたします。

お諮りいたします。

本案は、委員長の報告及び質疑を省略することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(田村市郎君)

御異議なしと認めます。よって委員長の報告及び

質疑は省略することに決定いたしました。

この際、討論の通告がありますので、これより討論を行います。

討論については会議規則第五十一條の規定に従い、最初に反対者から発言を願います。反対者、十一番 原敏子君。

(十一番 原 敏子君登壇)

○十一番(原 敏子君) 議案第六十八号 昭和五十八年度福生市一般会計決算認定について反対討論をいたします。

政府の臨調行革路線とあわせ東京部も財政再建の名のもとに住民負担の増加を押しつけています。このようなときこそ市当局は市民生活を守る立場で行政を押し進めていかなければならないと考えます。

市長は、昭和五十八年度の施政方針の中で、国や部に対し補助金等の確保に努める傍ら適正なる受益負担等により財政基盤の確立を図りたいと言われました。しかし、国や部に対し、基地交付金一つを例にとってみてもわかりやすいように政府の方針に理解を示しています。危険な横田基地を抱えている市民には、日常的に受けている基地被害を号えろと到底認めるわけにはいきりません。しかも、市当局は適正な受益負担という名のもとに市民に負担を押しつける方向に進んでいます。

福祉の施策で身体障害者用自動車改造費の一部助成などの新規事業もありませんが、その他の社会福祉の給付は前年並みの水準に据え置き

かれ、保育料は二年連続の引き上げを行いました。財政的に見ても二億八千万円ものお金を財政調整基金に積み立てるなど、市民要求が山積みしている中で、ことに冷たい市政を行ってまいりました。

このような政治姿勢を貫いた当決算の認定につきまして私は反対するものであります。

六十年度の予算編成に当たっては、福祉の充実を図り市民生活擁護に力を入れるよう強く要望いたしまして、簡単であります。私の反対討論をいたします。

○議長(田村市郎君) 次に賛成者、二十二番村尾栄次君。

(二十二番 村尾栄次君登壇)

○二十二番(村尾栄次君) 昭和五十八年度福生市一般会計決算について、賛成の立場から討論を行います。

国は財政の再建を行財政の改革によって、求の厳しい抑制策をとっております。五十八年度予算編成から予算の執行に当たっては大変厳しい状況であったと思います。